

第2回奈良市学校規模適正化検討委員会会議録

■ 日 時 平成20年(2008年)12月19日(金) 15:00~16:30

■ 場 所 市役所 中央棟6階 第2研修室

■ 委員名簿 奈良市学校規模適正化検討委員会委員(20名)(敬称略、順不同)

会 長 重松 敬一 (学識経験者・奈良教育大学副学長)
上野 ひろ美 (学識経験者・奈良教育大学教授)
八尾坂 修 (学識経験者・九州大学大学院教授)
小柳 和喜雄 (学識経験者・奈良教育大学教授)
岡田 博義 (保護者代表・奈良市PTA連合会会長)
向谷 仁美 (保護者代表・奈良市PTA連合会中高校部会部長)
今中 和子 (保護者代表・奈良市PTA連合会小学校部会部長)

副会長 酒井 重治 (学校代表・奈良市立学校園長会会長)
福井 敏雄 (学校代表・奈良市立中学校長会会長)
武野 正 (学校代表・奈良市立小学校長会会長)
山村 悦子 (学校代表・奈良市立幼稚園長会会長)
吉岡 正志 (地域代表・奈良市自治連合会会長)
田中 幹夫 (弁護士・奈良市顧問弁護士)
津山 恭之 (行政代表・政策監)
上田 和利 (行政代表・総務部長)
吉本 賀勇 (行政代表・市民生活部長)
神田 義隆 (行政代表・市民活動部長)
荒木 恵子 (行政代表・保健福祉部長)
中室 雄俊 (行政代表・学校教育部長)
嶋田 康敬 (行政代表・教育総務部長)

■ 出席者 委 員 15名(欠席:上野委員、八尾坂委員、酒井委員、上田委員、中室委員)

事務局 10名 (学校教育課長、学務課長、教育総務課長)
教育企画課長、教育企画課職員6名

■ 議 事

1. 開会
2. 議事
 - (1) 学校規模適正化の進捗状況と課題等について
 - (2) その他
3. 閉会

会長

- ・ただ今より、第2回奈良市学校規模適正化検討委員会を始めさせていただきます。
- ・学校規模適正化の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

■学校規模適正化の進捗状況と課題等について

事務局

- ・学校規模適正化（前期計画）の進捗状況等について説明した。

会長

- ・前期計画の進捗状況のご説明いただきました。何かご質問はございませんか。

A委員

- ・富雄南幼稚園で認定こども園制度を導入するが、思っていたほど応募が多くない。特に4・5歳児や長時間利用児についてそのように感じます。
- ・導入した目的に待機児童の解消があったと思うが、園児数が増えていないのはなぜですか。

事務局

- ・4・5歳児については、すでに私立幼稚園や保育園へ行かれている方が多い。
- ・長時間利用児については、現在就労されていないが就労を希望されている保護者の方が長時間利用に移ることが想定される。面接で確認した際に、長時間利用への移行を希望されている方が多くいらっしゃいました。

A委員

- ・短時間利用児と長時間利用児の募集を130人と40人に分けているのは、教員の配置数が理由なのですか。

事務局

- ・従来の幼稚園としての園児数を120から130人ぐらいと想定し、その上で余裕数として40人としました。

会長

- ・初めての認定こども園であるため、なかなか想像できないと思われます。今後、実際通われた方からのクチコミで園児数が増えることが期待できると思います。

A委員

- ・制度を導入した経緯から考えると長時間利用児の数が増えてほしい。ニーズに対応して、利用枠の園児数を変えていくのですか。

事務局

- ・施設の関係からクラス数は6クラスに限定されてしまうため、総定員は増やせません。
- ・今後、長時間利用児へのニーズが増えてくれば利用枠の変更を検討しますが、その場合、職員配置が問題になってくると思います。

B委員

- ・東部地域は、学校をどこに統合するのですか。「総論賛成・各論反対」ということは分かっていますが、自治連合会としては気になります。

- ・ 鼓阪北地域は自治連合会がありません。今回の統合・再編の話をきっかけにして、自治連合会を作ってもらおう動きに出来ないか、そのことを後押ししてほしい。
- ・ 佐紀地域は、西大寺方面が生活圈となっている。しかし、統合が計画されている都跡幼稚園はその生活圈から外れているので推進が難しいのではないのでしょうか。

□事務局

- ・ 東部地域については2つの段階を踏みます。まず統合・再編し、その次に小中一貫教育の導入を図ります。当初は、この2つを併せて説明していましたが、地域の方にとっては分かりにくい面があると思いますので、現在は、統合・再編の道筋が見えた段階で、小中一貫教育について検討を進めていくという方針で説明しています。
- ・ 東部地域のうち、狭川・東里・大柳生については、統合・再編について、ある程度理解していただいています。
- ・ 柳生については、説明をしておりますが、統合・再編についての理解を得るに至っておりません。
- ・ 田原については、小中一貫教育を行っていますが、今後10年をメドに東部地域として1つの小中学校としたいと考えており、どこかの段階で全地区を含めた協議会の設置に向けて取り組んでいきたいと考えています。
- ・ 鼓阪北幼稚園については、保護者説明会を開催した際、協議会の設置等については全地域の自治会の代表者による話し合いが必要であるということになり、自治会に対して説明会を開きました。出席された自治会は、内容を持ち帰り検討をすることになり、欠席された自治会に対しては説明と協議の内容を送付しました。
- ・ 佐紀地区については、説明会を開催した際に西大寺が生活圈であるという話は、特に無かったと思います。この地域は開発が規制されていてマンション等が建てられない状況なのに、子どもが少ないので適正化と言われても納得できない旨の発言がありました。また、都跡幼稚園に統合となった場合、交通の便や、佐紀の子ども全員が入園できるのかという心配の声がありました。奈良市教育委員会として、園児を増やす努力をするべきだという発言もありました。

□C委員

- ・ 幼小連携について、先進地域の取り組みやカリキュラムを研究することは大事ですが、教室配置がどのように工夫されているかなど、環境構成がどのようになっているかを見る必要があると思います。また、それを研究し、伝えることが、「幼稚園と小学校とが近くなることで教育環境の悪化を招く」という懸念に対する回答になると思います。
- ・ 幼小連携についても、このようになればいいという観点ではなく、こうすることでこのような効果が生まれるという説明が必要だと思います。

□事務局

- ・ 右京小学校と右京幼稚園の併設に向けた改修案では、幼稚園と小学校の校舎が分かれているため、通常の授業では、懸念されているような問題は発生しないと考えています。

- ・校舎の間に園庭を設ける計画について、園児が園庭で活動する時に小学生の授業に影響するのではという意見がありました。また、園庭に隣接する特別教室で授業を行う際に影響するのではという意見もありました。
- ・右京の協議会の方々が東京の先進園を実際に見学されました。実際に見学することによって、イメージが掴めて、懸念がある程度払拭されたようです。幼小併設には小学校側の理解が必要ではないかという意見もありました。また、見学されたことによって、施設に対していろいろな要望が出てきたため、事務局として条件整備に時間を費やし、現在の計画案となりました。

□A委員

- ・精華地区における「対等合併」とは、何を意味しているのですか。

□事務局

- ・帯解と精華、あるいは東部地域についてですが、当初「～への統合」と表現していました。しかし、「小さいところは、大きなところへ行けということか」という地域からの意見がありました。
- ・地域の方々にとって、この表現が受け入れ難いのであれば、表現に工夫ができないかと考えました。例えば、「～との統合」や、「どこそこの場所においての」という表現に変更することについて、どのように思われますか。

□A委員

- ・いま例示頂いた「対等合併」を念頭に置いた表現では、2校の中間地点に新設するように感じます。名称も問題になってくるのではないのでしょうか。

□事務局

- ・精華と帯解については、保育園も含めた検討を行っており、表現は変えていくとしても、教育委員会としては帯解小学校・帯解幼稚園が統合先になっていることを説明していきます。

□A委員

- ・説明を聞いている限り、「～との合併」という表現は不適切ではないのでしょうか。「～の場所での」というように統合先をはっきりさせたほうがよいと思います。「～との合併」では、終わりのない話になるのではないのでしょうか。

□D委員

- ・計画を進める上では、確かに場所をはっきりさせた方がいいと思いますが、保育所の立場から言うと、最初から場所が決まっていると進めていくのが難しいです。統合・再編が絡む地元の人々の感情をもう少し考慮して進めていく方がいいと思います。

□会長

- ・地元への配慮が必要であることは分かりましたが、どこかのタイミングで統合する場所を決定しなければなりません。そこに至るために、何かポイントは無いのでしょうか。

□E委員

- ・地域によって、条件が異なってくるので、一概に表現するのは難しいと思います。

□会長

- ・富雄南幼稚園については、順調に進んでいるのですか。

□事務局

- ・認定こども園制度を導入することが決定しているので、施設改修について詰めています。

□会長

- ・鳥見幼稚園の鳥見小学校への併設について、もう少し詳しく知りたいのですが。

□事務局

- ・併設の際にどの校舎に入るのかという事が一番大きな問題になっており、条件整備について、さらに丁寧に説明をするよう努力します。
- ・鳥見幼稚園と鳥見小学校は、少し離れた場所にあるため、お互いの教員が交流の機会を持つようにしていきたいと考えています。

□F委員

- ・右京幼稚園の右京小学校への併設の際、手法を真似ていくのがよいのではないのでしょうか。

□会長

- ・佐保台幼稚園と左京幼稚園の統合・再編について、今のところ質問がありませんが。

□事務局

- ・佐保台地域において、一時期住宅開発が行われたため、子どもの数も増えました。しかし、現在、再び減少傾向にあります。
- ・左京幼稚園に統合・再編する際に問題になってくるのは、交通手段の確保です。何らかの手段を考えて提示していきたいと思えます。

□会長

- ・奈良市全体の状況について、ご説明いただけますか。

□事務局

- ・奈良市の人口動態を調べると、国の傾向と同じく、高齢者の比率が増加し、子どもの比率が減少しています。
- ・未就園児の親子登園利用者にアンケート調査をした結果、8割強の方が3歳児保育の実施を求めておられました。
- ・幼稚園の適正化の検討を始めた時の推計以上に園児数の減少が進んでいるため、全体的な様子を見ながら、私立幼稚園との関係も含めてもう一度検討する必要が出てくるかもしれません。
- ・3歳児保育の希望以外に保護者からよくある問い合わせとして、どれぐらいの時間預かってくれるのかということと、給食があるのかということと、スクールバスがあるのかということと、車での登降園ができるのかということがあります。

□B委員

- ・3年保育について真剣に考えてほしいです。そうでないと、私立幼稚園に園児がどんどん流れていくと思います。

□G委員

- ・3年保育が実施された場合、希望者全員が入園できるようにしてほしい。

□会長

- ・奈良市の幼稚園では、公立高校のように私立・公立の人数比率が決まってないですよ。

□事務局

- ・特に決まっておりません。

□H委員

- ・私立幼稚園では独自のカリキュラム、例えば英語教育などで特色を出しています。そのことも園児数を増やす一因になっていると思います。
- ・市立幼稚園が特色を出していくには、今の教員配置では限界があるし、3歳児保育を行うと、さらに厳しくなると思います。

□会長

- ・統合・再編を進めていくことで、教員に余裕が生まれてきます。そうすると3歳児保育も考えていくことができます。「選択と集中」が大切です。

□事務局

- ・適正化を進めることで、幼稚園の規模を一定に確保していきたいと考えています。また、教員配置についても確保していきたいと思います。

□会長

- ・お時間になりましたので、第2回適正化検討委員会を終了します。